

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

協会報

第 25 号

平成7年10月16日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



'95USA杯サッカー大会開会式会場で

目次

- 今年も USA CUP に参加 P2
- 俳句コンテスト選考結果、世界ジャンボリーに参加して P3
- '95 Summer in Minneapolis P4・P5
- モンモランシー合唱団来茨 P6
- ミネソタ州日本語村だより P7
- 書画・写真展、寄付、行事案内 P8



試合会場で



対ニューホープ・ウィングス戦

今年もUSATMカップ95に参加

今回、'95USA杯サッカー大会に参加するためミネアポリス市へ行ってきました。この10日間は子供たちはもちろん私自身にとっても大変意義深く貴重な体験をすることができました。

ゲームの行われたナショナルスポーツセンターは、43面もの芝のグラウンドを持ち、周囲360度見渡しても芝のグラウンドばかりというスケールの大きさには全く驚き、また、うらやましくもありました。

ゲームの方は、最初は生活習慣の違いからくる疲れのため、なかなか本来の力が発揮できませんでしたが、2日目の最終戦では、本来の粘りが出てきて好ゲームができるようになりました。米国の子供たちのサッカーを見てみると、非常に当りが厳しくパワフルなサッカーをするチームが多いようで、技術面では日本の子供たちの方が上手かなという印象は持ちましたが、グラウンド全体を

活用する戦術面や、ファイティングスピリットはかなりのものでした。

今回の派遣のもう一つの目的のホームステイでは、いろいろとハプニングがあったようです。子供たちが口々に私達に訴えたことは、次から次へと食べ物を出され食べる食べると勧められ困っている、なんとかうまく断ってくれといったことでした。子供たちも相手の歓迎ぶりを無下にできず、また言葉がうまく言えないもどかしさで苦戦していたようです。ただ、どの家庭も我が子同様に接していただき、子供たちを楽しませようという思いがとても強く感じられた毎日でした。

最後に、中学生という多感な時期にこうした貴重な体験ができたことは、生涯忘れられない良い思い出になったと思います。この体験がこれからの生涯に活かせる機会があれば、ぜひ活かして欲しいものです。(北陵中学校 教諭 長田 功)

協会の要集



ミ市と姉妹都市提携15周年、安慶市と友好都市締結10周年を迎えている本年は、楽しい行事が盛りだくさんです。国際交流に興味をお持ちの方は、この機会にぜひご入会下さい。会員には、協会報や協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉個人会員 (一般) 2,000円
(学生) 1,000円
団体・法人会員 5,000円

〈申込先〉協会事務局 (市役所3階自治振興課国際交流係)
☎22-8121内線2143)

MICCA 1995年俳句コンテスト選考結果

今年もMICCA（ミネアポリス市・茨木市文化協会）が募集した俳句コンテストの応募作品が届きました。

この俳句コンテストも今回で3回目となり、題は「歌」で募集されました。今回は中・高校生165人、成人10人の合計175人が参加し、約360点の作品が寄せられました。

MICCAにはもっと多くの作品が寄せられたようですが、その内の幾つかは、俳句の形になっていなかったため、茨木には送られて来ませんでした。

どの作品も大変秀作で、文化部会での優秀作品選考に長時間を要しました。MICCAの希望により、一般の部1位～3位、学生の部1位～3位、そして佳作を各学校から1名選びました。

選ばれた作品の一部を紹介します。

[一般の部]

1位 Silver morning sun
On frosted winter windows
Groves of crystal ferns
(窓に咲く羊歯の結晶朝日受く)
Rich Fournier

[学生の部]

1位 Crystal rain droplets
Fall on waterlily leaves
A mirror is formed
(睡蓮の葉に雨滴乗り玉鏡)
Khoi Nguyen

[佳作] A little bird sits
Shivering, tiny as a
Snowflake in the air
(一ひらの雪に似たりし鳥震う)
Ilana Schonfeld-Hicks



オランダ側のリーダーを囲んで

世界ジャンボリーに参加して

この夏私は「社団法人茨木カンツリークラブ青少年国際交流助成金」の交付を受け、オランダで開催された「第18回世界ジャンボリー」に9人の隊員と一緒に指導者として参加しました。

世界ジャンボリーというのは、4年に1度実施される世界中のスカウト対象のキャンプ大会のことです。

大会期間中は、参加者共通のプログラムのハイ

キングや討論会、また我々自主企画の交歓会などを楽しみました。交歓会では、外国スカウトと一緒にそうめんを食べ、ゲームや歌で夜遅くまで盛り上がりました。

阪神大震災の資料を日本から持参し、現地で掲示したところ、やはり外国スカウトは興味深く、熱心に資料などを読み、様々な質問を我々になげかけていました。

また、参加者全員が英語を話せるわけではありませんでしたので、単語だけで話すスカウトや、日本語と動作だけで理解を求めているスカウトもいましたが、それだけでも意思の疎通ができたのは、やはりスカウト同志・世界ジャンボリーなのだと感じました。

今回の様々な経験を現隊（茨木第1団ボーイ隊）で活かし、今まで以上に活発な活動を行っていきたいと思っています。（貝出 仁）

'95 Summer in

この夏、茨木市から14人の中・高校生と成人3人を含む市民親善訪問団が、7月21日から31日までミネアポリス市を訪れ、たくさんの素晴らしい思い出を作ってきました。

高く澄んだ青い空、どこまでも続く緑の芝生、涼しい風を運ぶ大小の湖。茨木市の姉妹都市、アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス市は、思わず外でランチをとりたくなるような、とても美しい街です。

ミネアポリス市では、文化協会の方々の温かい



州議事堂の前で

もてなしを受け、ウェルカムパーティーや、市内見学、ピクニックなど様々な交流行事に参加しました。

到着2日目、ドキドキしながら、ホストファミリーとおちあい、2泊3日のホームステイが始まりました。ホームステイ家庭の皆さんは、高校で日本語の勉強をしているからと「象さん」の歌を歌ってくれたり、「明日は湖で過ごしましょう」と



トロリーバスでミニ市市内を見学

姉妹都市活動室

青少年活動室



研究会のひとこま

外国人ゲストを迎えての講演会や研究会で国際感覚の向上をめざしませんか。

〈活動日〉第1木曜日午前10時～

第3土曜日午後2時～

〈年会費〉正会員 2,000円 (18歳以上)

準会員 1,000円 (中・高校生)



外国人ゲストを迎えて

ピクニックやクッキングなど、青少年活動室では、いろいろな国の人達との交流、英語でのゲーム、季節のイベントを楽しんでいます。

原則的に毎月第4日曜日の午後2時から福祉文化会館で行っています。会費は無料。

Minneapolis

私達の緊張を解きほぐそうと、気をつかってくださり、皆それぞれ楽しい時間を過ごし、あつという間のホームステイでした。

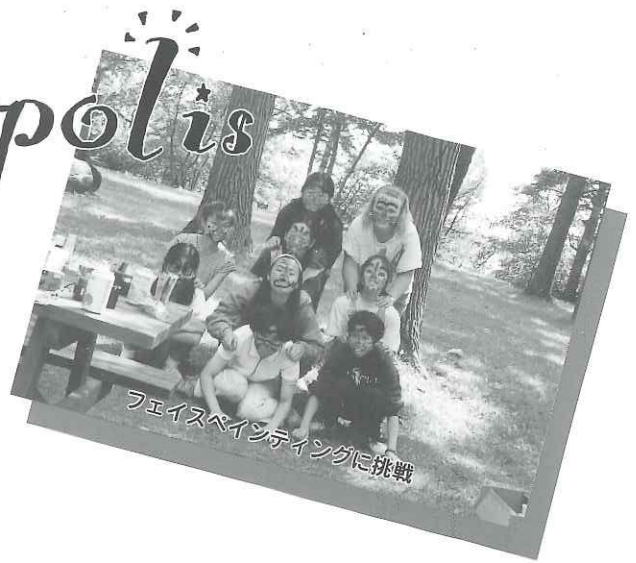
4日目の夕方、黄色のスクールバスでいよいよオジケタキャンプ場へ。たくさんの蚊には悩まされたものの、日本では決して経験できない様々なプログラムが用意され、毎日、いろんな事にチャレンジしました。湖でのスイミング、カヌーに、ボートに、ナイトハイキング、趣向を凝らした衣装で踊ったダンスパーティー、etc。「え〜！ほんとに13才?!」と、大きなアメリカの子供に驚き、毎日、どんどん友達が増えていきます。

世界各国から集まるキャンプカウンセラーやアメリカの子供たちと一緒に過ごした夏休みの思い出は、何よりのおみやげになりました。



▲キャンプでピクニック

▼ホームステイ家庭と



キャンプの思い出

西田 尚人

僕は、国際交流キャンプに来てよかったと思います。

ホームステイとキャンプで英語の勉強をしたし、ミネアポリスの人たちと交流もできたし、とても楽しかった。飛行機とバスの乗物酔いにも、強くなったと思います。

またアメリカに来ることがあつたら、今度は英語をもっと使いたい。このキャンプの思い出は、一生忘れない。

旅行をおえて

川越 のぞみ

7月21日に出発して、長いなあと思っていた10日間はあつという間に終わってしまいました。

外国の人と話すのは、緊張するけどすごく楽しく、少ししか英語が分からなくても、一生懸命通じようとする、なんとなく会話ができるようになって、すごいと思い、何でも積極的にがんばっていかないといけないと思いました。ホームステイ先や、キャンプ場などで、友達ができたり、魚釣りをしたり、ボートをこいだり、ディズニーランドに行ったり、夏休みのいい思い出になり、また行きたいと思いました。



モンモランシー合唱団来茨



盛り上がったジョイントコンサート



天保山でホームステイ家庭と

8月20日から22日までの3日間、大阪府の姉妹都市フランス・ヴァルドワーズ県からモンモランシー合唱団が来茨され、ホームステイ、ジョイントコンサートなどのふれあい交流を通じて茨木市民と親善を深めました。

ヴァルドワーズ県は、フランスの首都パリの北西約20キロに位置し、有名なシャルル・ドゴール空港を擁する、フランスでも屈指の産業地域です。

今回、来日したモンモランシー合唱団は、モンモランシー市の中で選ばれた12歳から15歳の少年少女で編成され、大阪府の姉妹友好都市（6か国）と共に8月19日、「F'95国際少年少女合唱祭・大阪」に出演したものです。

8月20日、本協会では、当合唱団を迎え入れホ

ストファミリーと共に、国立民族学博物館、海遊館の見学をしました。当日は真夏日にもかかわらず、ホストファミリーと仏語、英語、日本語、時には身振り手振りなどを加えながらも仲良く見学を楽しみました。

8月21日、市長・議長表敬訪問の後、午後3時から茨木市市民総合センターで茨木市児童合唱団とのジョイントコンサートを行い、「合唱祭」での発表曲をはじめ児童合唱団との合同合唱曲など、市民に素晴らしい歌声を披露しました。中でもアンコール曲となった「さくら さくら」は、公演で歌うのは初めてと思われない程、独特の美しいハーモニーを見せ、「トレビアン!」「ブラボー!」と観客席から賞賛の聲が上がりました。



国立民族学博物館見学



見学先へのバスの中で



ミネソタ州日本語村だより

この夏、全米から集まった子供たちに日本語や日本文化を伝えるという素晴らしい機会に恵まれ、ミネソタ州の日本語村「森の池」へ行ってきました。

「森の池」は、ミネアポリスから北へ車で4~5時間、静かな清い湖の辺にありました。広い敷地、澄んだ空気、真青な空。朝夕は涼しく、愛情一杯の食事。ラジオ体操で1日が始まり、歌にゲームにクラブ活動、自由時間。プログラムの随所で日本語が使われ、子供たちも自然に学んでいました。

日米両国のスタッフも個性的で素敵なメンバーが揃っており、私はまるで茨木市の野外活動センターでのキャンプカウンセラー時代に戻ったように、毎日が楽しく、面白く、新鮮でした。

また、両国の違い、良さ、生活習慣などを知ることができ、視野が広がりました。

物事に取り組む真剣な眼差し、私に英語を教えようとする彼らの喜々とした表情、何気ない普段の仕種、どれもこれもが印象的です。

「森の池」での子供たちの笑顔や優しいスタッフに囲まれての生活は、私にとって生涯忘れられない思い出となるでしょう。そこで得た多くのことを大切に、これからの教師生活の中で十分に生かしていきたいと思っております。

See you again! 森の池、そして、みんな。

(藤木 奈緒子)

私がこの夏、子供たちに教えたクラブは、剣道、書道、カヌーの3つですが、特に剣道のクラブ活動が印象に残ったので、そのことについて書こうと思います。



同じキャビンの子供たちと(左端が藤木さん)

私が好きだったのは、竹刀を手にしたときの子供たちの顔です。とても嬉しそうで、手にした竹刀をいつまでも思い思いに振り回すのです。

しかしこうなると、いくら私が竹刀の正しい振り方を言っても、子供たちは全然聞かなくなります。

この子供たちが、週の最後のトーナメント戦が近づくと変わってきます。がぜん、私の言うことを聞き始めるのです。そればかりか、昼休みにまで私のところにやってきて剣道を教えてという子供もいました。クラブの始まる前に道場から、「ヤアー、面！」と声が聞こえてくるときもありました。アメリカ人の独創性はこういったところで形成されるのかな、と思いなが



夜のイベント「書道」(中央が吉田さん)

ら彼らの「やるときはやる」といった姿を私は感心してしていました。

クラブが1週間単位なので、子供たちとは、本当に短い付き合いなのですが、剣道を通してできたきずなは強く、「森の池」から帰った今でも文通という形で続いています。

(吉田 恭子)



ミネアポリス市との姉妹都市提携15周年、安慶市との友好都市締結10周年、また、国内姉妹都市うちのみ内海町との7周年を記念し、7月19日から23日まで、姉妹・友好都市との交流の足跡と、海外2都市の書画を紹介するため、「書画・写真展」を開催しました。

ミネアポリス市は、写真28点、小・中学生並びに高校生の絵画85点を、安慶市は、写真28点、小・中学生並びに成人の書33点、小・中学生の絵画62点を、そして内海町は写真15点を展示しました。

また、15年間の交流写真72点とともに、各姉妹・友好都市のパンフレットや地図等も展示しました。

開催期間中、会場の茨木市立中央図書館には7千人余りの市民の皆さんが訪れ、多くの人が食い入るように見学されていました。

書画・写真展

姉妹都市提携15周年記念
友好都市締結10周年記念

交流写真では、青少年のスポーツ交流に関心が集まり、絵画や書についても、青少年の作品が注目を集め、熱心に観賞されていました。

特に、安慶市の書の展示コーナーでは、ほとんどの人が、「これが小学生が書いた作品とは？」と驚いていたのが、印象的でありました。

協会では、もっと多くの市民の皆さんに姉妹・友好都市交流を理解していただくように、「写真パネル」の貸出を事務局で行っておりますので、各団体等でご利用ください。



安慶市からの作品

寄付

本市の国際交流事業推進のために、次の方々から温かいご寄付をいただきました。ご厚意に心からお礼申し上げます。(5月～10月 敬称略)

〈市へ〉6月 国際ゴルフ株式会社 (100万円)

8月 宗教法人辯天宗冥應寺 (120万円)

これからの行事のご案内

今年の10月は、ミネアポリス市と姉妹都市提携15周年、安慶市と友好都市締結10周年になります。すでに多彩な行事が記念行事として行われていますが、これらを集約するように11月、ミネアポリス市と安慶市から代表団が訪問します。

ミ市からの訪問団は市民約50人が来茨の予定で、3泊のホームステイ中に本市市民と友情を深めます。

ミ市市長も訪問団とともに到着し、市内見学などの後、13日福祉文化会館文化ホールで『平和と人権』について講演いたします。

また、安慶市からは2団の代表団が訪問し、ミ市訪問団と一夕をとものにします。

この他、11月3日には恒例の「英語スピーチ大会」、20～21日は秋の紅葉がたいへん美しい内海町への訪問、12月3日には「国際交流の集い」が予定されています。